

## 8 ICTを活用しよう

## ☆ICTの特性や強み

- ①多様で大量の情報を収集、整理・分析、まとめ表現することなどができ、カスタマイズが容易であること。
- ②時間や空間を問わずに、音声・画像・データ等を蓄積・送受信できるという時間的・空間的制約を超えること。
- ③距離に関わりなく相互に情報の発信・受信のやりとりができるという、双方向性を有すること。

〈参考〉より引用

## ☆情報活用能力とは

情報活用能力についての解説は、参考資料―5に記載があります。

ここでは、ICTを活用する能力は、情報活用能力の一部にすぎないということを知っておいてください。

## ICTを授業に取り入れる

ICTとは、Information and Communication Technologyの略で、コンピュータやインターネット等の情報通信技術のことを指します。ICTの特性や強みをいかして授業に取り入れていくことは、「主体的・対話的で深い学び」の実現のために有効といえます。タブレットやプロジェクタなどの機器を積極的に活用して、より充実した授業を目指しましょう。ただし、ICTを授業に取り入れることを目的とせず、指導のねらいを達成するために、生徒に身に付けさせたい力に応じた効果的なICTの活用方法を考えるとよいでしょう。

## 教師が活用する

映像の提示、資料の投影、課題の提示などの活用が考えられます。

## 生徒が活用する

資料収集、調査結果の整理（分析、グラフ化等）、協働学習、発表活動（プレゼンテーション）等での活用が考えられます。

ICTの活用によって、単に情報を収集・整理させるだけでなく、情報を主体的に扱い、受け手の状況を想像した情報発信ができる能力を身に付けさせることができます。これらのICTを活用する能力を含む「情報活用能力」を育成する学習活動は、全ての教科で行うことが重要です。

個別支援  
が必要な  
生徒への  
対応を考  
えよう

## 特性に応じたICTの活用

読字や書字に困難を示す生徒には、視覚的に分かりやすく理解しやすい大画面テレビによる教材提示やタブレット端末を活用した板書記録が有効です。また、口頭でのコミュニケーションが苦手でも、メールやSNS等を使えば自分の考えを伝えられる生徒がいます。文書作成ソフトやプレゼンテーションソフトを活用して、自分の考えを表現する活動を取り入れましょう。



## 授業での活用例

### 一斉学習の場面で

例えば、**プロジェクタ**や**ノートパソコン**を用いて画像を拡大して提示したり音声や動画を活用したりすることで、分かりやすく説明することができ、生徒の興味・関心を高めることができます。

### 個別学習の場面で

例えば、**タブレット端末**を活用して一人ひとりの習熟度に応じた学習を進めることで、個々の課題に対応することができます。また、**ノートパソコン**を利用し、インターネットを用いた情報収集を通して自らの課題解決に生かしたり、シミュレーションをしたりすることで思考を深めたりすることができます。

その他、活動の様子を**ビデオカメラ**で撮影し見直すことで、できていることやできていないことを理解し次につなげたり、**デジタルカメラ**で疑問に感じたものの記録をとったりすることができます。

個別学習の場面でICT機器を活用することで、個々の課題を解決したり、それぞれにあった進度で学習したりすることが可能となり、より効果的に学習を進めることができるようになります。

### 協働学習の場面で

例えば、**プロジェクタ**や**ノートパソコン**を用いて調べ学習のまとめを全体の場で発表したり、**実物投影機**を活用して自分の作品を映して発表したりすることができます。その他**インターネット**を用いて遠く離れた学校や国との交流も可能となり、新たな発想や気づきを生むことができます。

協働学習の場面でICT機器を活用することで、発表や交流を活性化することができ、思考力・判断力・表現力等の効果的な育成を可能とします。

## ☆映像資料について

総合教育センターのホームページに、「教材作成に役立つリンク集」のページを用意しています。

普段から情報収集を行っておきましょう。

## ☆情報モラルに関する指導

情報モラルに関する意識を育てることも、各教科・科目の指導の中で行うこととして求められています。具体的には、情報の収集、判断、処理、発信など情報を活用する各場面に応じた情報モラルについて学習させることが考えられます。

教員は、法令や問題が起きた際の対処への知識等を持つことが必要です。

その上で、どのような教材があるのか、どのようなタイミングで、どのような方法で指導することが効果的であるかを考える必要があります。

## 〈参考〉

ICTを活用した教育の推進に関する懇談会「「ICTを活用した教育の推進に関する懇談会」報告書（中間まとめ）」平成26年8月29日

## 活用はアイデア次第

教科書や資料、ワークシート等、生徒全員が持っているものを提示することにも意味があります。教科書等の一部を隠して提示することで、学習内容に注意を向けさせることができます。また、「どこを見ればいいのか分からない」と授業に対する関心が低下してしまう生徒に対して、授業に集中させる手立てとして使うこともできます。

国語や英語などで長文を提示したり、数学などで解法を解説したりする際など、スクリーンを使わず黒板に投影する使い方も考えられます。生徒がコンピュータ等を使って作業する活動を取り入れ、学びを深めることもできます。